

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890100435
法人名	(株)ことぶき
事業所名	グループホーム ゆずはなの里
所在地	松山市古三津3丁目17番5号
自己評価作成日	平成23年9月15日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成23年11月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの個性を大切に、その人らしい生活が送れるよう、又、当ホームは2階建ての民家の一部改造(畳 フローリング・階段や廊下に手摺りほか)してグループホームとして利用している為家庭的な雰囲気や昔からなじみ育った我が家の暮らしのような日々が過ごせるよう応援しています。又、廊下やホールには、季節感を取り入れて、その季節毎の掲示物を職員と利用者と一緒に作成し展示しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

事業所で敬老会を行った際には、ボランティアの方が来てオカリナを演奏してくださった。地域の方数名に声をかけてお誘いして、1名の方が参加して下さり、一緒に楽しめました。事業所は今年、車を1台持たれたことで、小学校の文化祭を見学に行かれたり、買い物に行く等、出かける機会が作れ、地域のいろいろな方と交流する機会が増えてきている。

お一人の利用者からの希望をきっかけに、事業所では、利用者全員の入浴回数について、週2回入浴から週に3回入浴できるよう回数を増やす取り組みを始めておられる。入浴中は「昔の話」を聞かせてくれる利用者もあり、職員はお話をゆっくり聞いておられる。

事業所は、車を1台持たれたことにより、利用者が外出する機会が増えている。職員の提案で足湯を楽しむにかけたり、買い物等も利用者の希望を聞きながら出かけておられる。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない 	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	<ol style="list-style-type: none"> 毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない 	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない 		<ol style="list-style-type: none"> ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホームゆずはなの里

(ユニット名) ゆずはなの里

記入者(管理者)

氏名 中川 寿文

評価完了日 23年 9月 15日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 職員会議等にて管理者が、毎回グループホームの方針や 目標を説明して、朝、夕の申し送り、引き継ぎ時に、ホームの あり方を話し合っている。またその理念「愛」については職員 全員が共有して利用者さんの支援行動に活かされている。	
			(外部評価) 法人の理念に「愛」を掲げ、法人代表者は職員会議時や 日々の中で職員に思いを語っておられる。今年度は「愛をか たちにしていく」ことを目標にして、人間愛に満ちた介護を目 指しておられる。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 町内会にも加盟しているので回覧板による地域の行事が分 り参加出来るイベントには積極的に参加して、コミュニケー ションを繋いでいる。又、来年は町内会の組長の順番に当 たっているので、さらに地域との繋がりも広がってくると思わ れる。毎回、運営推進会議にも町内(地域)から2～3名の参 加があり、利用者とも会話されている。	
			(外部評価) 事業所で敬老会を行った際には、ボランティアの方が来てオ カリナを演奏してくださった。地域の方数名に声をかけてお 誘いして、1名の方が参加して下さり、一緒に楽しまれた。 事業所は今年、車を1台持たれたことで、小学校の文化祭を 見学に行かれたり、買い物に行く等、出かける機会が作れ、 地域のいろいろな方と交流する機会が増えてきている。11月 下旬には公民館の文化祭にも参加する予定となっていた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議などホームを訪れた地域の人に支援の方法 等を説明して地域の住民にも理解が広がっている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営推進会議は2カ月に一回開催していて、利用者さんや家族さんにも参加して頂き、意見交換をしながらサービス向上に努めている。併せて、松山市介護保険課職員、地域包括センター三津浜からの参加もして頂き、アドバイスや助言を取り入れサービス向上に活かしています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議では、外出や活動・事故等を報告して参加者と意見交換をされている。又、「後見人制度」等、議題を決めて勉強会を行っておられる。会議時、地域の方からは「来年、ホームが町内会の組長になるので、利用者と一緒に回覧板を回す等、利用者と一緒に活動したらいい」とアイデアをいただいた。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>松山市からの新型インフルエンザ、腸炎ビブリオ食中毒等の情報を職員全員で共有して、利用者さんに対応しています。また、介護福祉課担当職員の来ホームも随時有り、助言やアドバイスを取り入れています。</p> <p>(外部評価)</p> <p>市社協や地域包括支援センター主催の研修等にも参加して、他事業所とともに勉強をされている。運営推進会議時に地域包括支援センターの担当者の方から「地区で施設交流会をしているので、参加してみてもどうか」と提案をいただいた。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>身体拘束の意味を職員会議等で話し合うことによって、拘束の無いケアを実施している。また、日中は、玄関の施錠はせず夜間のみ家族さんからの要望によって門扉のみ施錠している。</p> <p>(外部評価)</p> <p>運営推進会議時に警察の方の協力を得て、「防犯」についてお話をいただいた。又、「利用者が徘徊した時の連絡方法」について「必要最低限、これだけは警察に情報を流してほしい項目」を説明していただいた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員は外部講習や研修によって、虐待についてのことを学び、又、職員会議等でも虐待事例を話し合うてことによっ虐待が見過ごされないように努めています。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 日常生活の状況を家族さんと話し合い、それによつての要望や支援を個々の必要性に応じて活用している。又、利用者さんの中に後見人(社会福祉協議会職員)が居られ、推進会議の議題に上げ職員、家族さん、地域の方の参加を頂き、成年後見制度の勉強会を行い、研究をしています。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入所の際に、利用者さん、家族さんに対して、パンフレットや文章・契約書等で詳しく説明して同意を得ています。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 運営推進会議で家族さんからの意見や要望を取り入れている。又、玄関に「御意見箱」を設置し、面会などで家族さんが来られた時に意見や要望がある方には、書いて頂くなどといった事を行っています。 (外部評価) 来訪のよくあるご家族や、足遠く「お任せします」と言われるご家族もあるようだ。管理者は小さなことであっても、ご家族に小まめに電話で連絡をしてコミュニケーションを図るように努めておられる。又、毎月の書類とともに、利用者個々の担当職員がご本人の1ヵ月の状況を手紙にして同封し、報告されている。報告に対して、ご家族から「おむつの量が増えた・減った」等の感想が聞かれることもある。	さらに、昨年から計画されているホーム便りは、法人の協力を得て近々、第一号を出される予定となっている。さらに、事業所のサービスをよくするための取り組みである運営推進会議で、話し合った内容を報告されたり、食事や外出等の事業所のサービスや職員研修の取り組み等、利用する側であるご家族が知りたい情報を発信していかれてほしい。さらに、運営推進会議へのご家族の参加も働きかけを工夫していかれてほしい。

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会議や、随時の検討会、カンファレンスにおいて、職員一人ひとりが意見を出し合っている。特に職員会議には代表者も出席して頂き、提案事項の至急有無によって即答してもらっています。	
			(外部評価) この1年間、職員の交替は、1名のみであった。管理者は、職員とのコミュニケーションを大切にされており、職員とコーヒーを飲みに行く等して、相談や悩みを聞き取っておられる。事故発生時は、ケアの改善に向けて、ケアマネジャーが講師役になって介護の知識や技術について勉強会を行ったり、又、外部研修を受講した職員は、事業所内で報告する機会も作っておられる。	事業所では、職員のさらなるスキルアップから事業所のケアサービスの質の向上を目指していきたいと考えておられる。認知症の勉強や自立支援に向けての利用者へのかかわり方・重度化や看とり介護のスキル等、職員が学びたいことも聞き取りながら、勉強する機会を作っていかれてほしい。
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 個々の職員の特性などを把握して、その人個人にあった報酬を出している。勤務体制も個々の状況や希望を考慮したシフト勤務を組んでいる。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) グループホームに関する書類や文献が常に閲覧が来て、代表者や管理者も助言や指導をしている。又、外部研修には積極的に参加してスキルアップするようにとの会社方針も打ち出している。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ゆずはなの里の経営は(株)ことぶきが行っているが、北条には、同経営のゆづかの里が有る。その中で職員の異動交流や相互訪問などを行っている。他社同業者との交流は出来ていません。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 新規利用者さんが発生した時には、入所前の状況や、間近の生活サマリーを活用して、本人が新しい場所で不安にむならないようコミュニケーションを取っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>新規入所の時、当ホームの理念などを詳しく説明して、利用者本人のことや要望事項、家族さんの要求などを最初にお聞きして対応している。</p>	
17		<p>初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ケアマネと職員が一对一で会話および日常生活と一緒に接して、その人に合った支援サービスを行っている。</p>	
18		<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>洗濯物の取り入れや個人別の仕分け、庭の草木への水やり、草引き、食事の準備など利用者と職員が一緒に行い、暮らしを共にする信頼関係を作っている。</p>	
19		<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>常に家族さんとは連絡を取り合い、利用者さんの望む事や希望される事を相談して、出来る事から実行している。</p>	
20	8	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>家族さんから情報を提供して頂き、親しい人や近所の人などの面会を依頼している。又、ドライブに出た時に、以前住んでいた地域や、家がある場合は寄ったりしている。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>ご家族が迎えに来られて、お墓参りや外出に出かける利用者もいる。受診帰りに買い物を買ったり、よく行っていただくと家で食事を済ませて帰ることもある。釣りが好きな利用者は、ご本人の釣り道具等をご家族に持って来ていただき、職員と海に出かけられたが、ご本人は船釣りの方が好きなようで、磯釣りは好まれなかったようだ。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 朝の洗面や口腔ケアの順番待ちの時、会話をしながら待たれたりして、新しい利用者さんが何も分からないで孤立しないような雰囲気が出来ている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所されたり、他のホームに移られても、必要に応じてその行かれたホーム、又は家族さんとも連絡を取り合い相談やアドバイスをしている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者さんとコミュニケーションをとる事によって、その人の入居前の環境に近い生活が送れるように、本人が大切にしていた物(アクセサリー・人形等)を持参して頂き、その利用者さんの自室や傍に置いてその人らしい生活をして頂いています。	
			(外部評価) 職員は利用者とのかかわりの中で、個々の希望等を聞くようにされている。	利用者の中には思いをくみ取りにくいような方や、以前の生活の様子を知り得難いような方もあるようだが、聞き取り方を工夫されたり、利用者が決めたり選んだりするような場面を積極的に作り、情報収集に努めていかれてほしい。そのような情報を介護計画に採り入れて、利用者個々の「その人らしい」暮らしを支えていかれてほしい。さらに、終末期のあり方についても、利用者の希望を大切に支援できるよう聞き取るような機会を作ってほしい。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんのお話しをよくお聞きして、その内容をメモにとって職員全員が共通の会話やコミュニケーションが取れるように活かしている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日、個人の生活記録を取り、日々の過ごし方を把握するように努めている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 本人や家族さんからの話しをお聞きして、その内容を管理者と職員で検討、ケアマネからのアドバイスを取り入れた介護計画を立てている。又、その介護計画は家族さんにも開示説明をして確認印をもらっている。</p> <p>(外部評価) 6か月ごとに利用者個々にADL(日常生活動作)についてアセスメントされている。毎月のカンファレンスで、職員は利用者のケアについて気付き等を話し合い、利用者個々の担当職員が3か月ごとに介護計画の案を作っておられ、ケアマネジャーがご家族からの希望等も合わせて介護計画を作成されている。ケアマネジャーは、日々の介護記録から介護計画の支援内容を拾い出して、毎月モニタリングを行っておられる。</p>	
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 毎日の介護日誌や個人の生活記録を行い、申し送り、引き継ぎを利用して職員間で情報を共有している。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) その人らしさを出して頂くために、家族さんとの連絡を密にして、その都度発生する事項に対して柔軟に対応している。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) 個々の育って来られた地域での資源を把握して、安全で豊かな暮らしが出来るよう支援しています。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医療機関(樋野クリニック)から毎週木曜日に往診して頂き、家族さんと連絡を取りながら支援を受けている。又、緊急時には随時の往診や、ドクターからどうするか等の指示によって、適切な医療支援を受けています。	
			(外部評価) 協力医の往診を受けておられる。訪問看護事業所から看護師が毎週来てくれて、利用者個々の健康管理をされている。	
31		看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) 済生会松山訪問看護ステーションと契約している。訪問した時に個々の利用者状態の報告、内用薬の増減、追加等も看護師から医師と連絡を取りながら場合によっては他病院受診などの対応等適切な支援をしている。	
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価) 利用者が病院受診や入院時には、家族さんにも同行して頂いています。医師との情報交換や相談も、家族さん中心でされていて、同行した職員は日常生活や、その入院原因等の情報提供をしています。	
33	12	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 常に利用者本人や家族さんの要望や希望に添えるように、家族さんと話し合いをしています。今までには該当者が無く、これからさらに家族さん、職員、地域の関係者とのチームでの支援に取り組むための勉強や講習を受けていく必要があります。	
			(外部評価) 事業所では看とりの指針に、「事業所の体制がその状態に対応できると判断される時には最後の看とりまでお付き合いしたい」ことを明記されているが、終末期のあり方について、利用者やご家族とお話をするような機会は、なかなか取りにくいようである。今後、職員の研修や医師、ご家族との話し合いを重ねられて、利用者やご家族の希望に沿った支援ができるような体制作りに向けて、取り組みをすすめていかれてほしい。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員会議等でだけが緊急事態の応急対応を勉強したり、救急車への依頼等についても、事務所の壁に対応方法を貼っており、職員の連絡網も作成して対応には徹底している。又訪問看護センターへの緊急時の相談や指示が受けられる体制が出来ている。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 火災や地震等の災害発生時の避難方法や避難訓練のマニュアルを作成、地域の人たちにも運営推進会議等で協力を依頼して、夜間を始め緊急時の協力体制を築いている。 (外部評価) 台所のガスコンロの前には「地震時に火を消す」と書いた紙を貼り、職員は日頃から火を出さないように気を付けておられる。事務所の電話前の壁には119番に連絡する際に間違えずに情報を伝えられるように、通報時のマニュアルが掲示されている。火災時の通報装置は、近日中に設置される予定である。車いすを使用している利用者とともに地域の避難場所まで行ってみられたが、階段等があり、通行が困難なところもあったようだ。	事業所は民家改修型のグループホームで、2階にも居室がある。利用者の状態により、職員が利用者を抱きかかえて上がり降りをしている方もいる。災害時等いざという時に、すべての利用者の安全を確保できるような方法について、検討を重ねていかれてほしい。消防署や地域の方達の協力も得ながら、さらに具体的な訓練を重ねていかれてほしい。
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者さんの個人情報を出さないよう、また、情報内容を他言しないように徹底している。併せて個人の病気の内容や飲んでいる薬についても外部に漏れないように徹底している。 (外部評価) 利用者個々の誕生日には、職員手作りのケーキや色紙のプレゼントで誕生日当日にお祝いをされている。利用者の中には同性介助を希望する方もあり、応じておられる。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日ごろから何をしたいか、何処に行きたいかなどを問いかけ、利用者さん個人の希望を伺い、出来る限り個人の希望に添えるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 食事に時間を掛けられる利用者にはその人のペースに合わせて、カラオケの好きな利用者にはカラオケをして頂き、ゲームやトランプ、編み物などその人らしい生活をして頂いています。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 季節に合った服装を選択して着られたり、利用者本人が自分で毛染めをしたい時などは一緒に手伝っている。最近美容セラピーの外部研修にも参加したので今後活用していきたいと思っています。又、2か月に一度理容店来所による散髪もしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 食事時間はTVを消して、CDによる音楽(童謡・演歌・クラシック等)を流している。おしぼり配り、食材の皮むぎ、食後のおぼん拭き等をされている利用者も居られる。 (外部評価) 食事の味付け等のこともあって、配食業者を替えられたが、現在も出来上がった食事が届くようになっており、必要に応じて事業所で、職員が小さく切ったりミキサー食等に調理されている。調査訪問時は、利用者のとなりに座って、職員は持参したお弁当を食べながら介助をされていた。又、職員ひとり、利用者のそばに立って、食事中は見守り、利用者の食後の服薬のサポートをされていた。地域祭の日には、利用者の希望で焼肉を楽しまれた。「朝食は7:30から」と台所に掲示されている。利用者個々がご自分のペースで食事を始め、終わった方は個々に居室にで休まれる様子がみられた。	事業所では「利用者と一緒にいる」ことを大切に考えておられる。事業所の食事支援について「生活支援」という観点から、事業所の支援のあり方を考えてみる機会にされてはどうか。事業所で利用者と一緒に食事を手作りする機会を作ったり、利用者の希望に沿ったメニュー作り等、利用者を楽しめるような工夫を重ねていかれてほしい。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食材は外部発注をして栄養バランスを考えている。水分量も午前中600~800ccを目標として、支援している。蜜柑、レモン、カルピス等のゼラチンによるゼリーを作り水分補給の対応をしている。又、嚥下の低い利用者にはトロミをつけて水分摂取の支援をしている。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 一人ひとり食後の声かけによって口腔ケアをしている。又、洗面所に行けない利用者には職員が緑茶等で歯ブラシによる口腔ケアをしている。夕食後に義歯を外してポリデント対応による消毒もしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 個人別排泄記録をチェックして個人別に随時のトイレ誘導を行い一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握して、自立に向けた支援をしている。	
			(外部評価) ご自分でトイレに行かれる方や、職員が誘導してトイレで排泄している方もいる。現在、利用者は全員便秘薬が処方されており、医師の指示に従い服用されている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) カロリー計算された野菜や魚中心のメニューを外部発注している。又、個人別に近くの散歩コースを歩いたりしている。併せて、かかりつけ医の診察により、カマグを毎食後に投与している利用者もおられる。	
			(外部評価)	
45	17	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 介助の少ない利用者には、本人の希望する日時に入浴して頂いている。また介助の必要な利用者には、随時の声掛けによりその時の希望により入浴されている。又、バスクリン等の入浴剤も日々変えて使用してお湯の色でも楽しんでいる。自分で出来る事や着脱、洗身は声掛けにより本人にして頂いている。	
			(外部評価) お一人の利用者からの希望をきっかけに、事業所では、利用者全員の入浴回数について、週2回の入浴から週に3回入浴できるよう回数を増やす取り組みを始めておられる。入浴中は「昔の話」を聞かせてくれる利用者もあり、職員はお話をゆっくり聞いておられる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 昼夜逆転しないような生活支援を行い、夜間は足音が気になって寝れない利用者の居室に訪問する時にはゆっくり歩行し、目覚めることの無いように心掛けている。	
			(外部評価)	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 投薬袋に一週間分を仕分けしているのを毎日に投与する。又、薬が変更された時は、個人別ファイルに綴じて職員全員が確認するようにしている。又、訪問看護センター看護師にも投薬による副作用や変化を伝えるようにしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 編み物の好きな方には毛糸を買ってきて、利用者が先生になって職員に教えて頂いたり、草花の好きな方には花の手入れをして頂いたりしている。又、洗濯物を取り入れたり、たたんだり、個人別に仕分けたりして頂いている。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 会社車両を利用して、買い物に行ったり、足湯に行ったり、食事に行ったりしている。又、釣りの好きな人と10月、高浜へ釣りに行く計画をしていて、家族さんも本人が過去に使用していた釣り竿を探して準備してくれています。随時の散歩も出来る限り本人の希望通り行ってます。	
			(外部評価) 事業所は、車を1台持たれたことにより、利用者が外出する機会が増えている。職員の提案で足湯を楽しみに出かけた。買い物等も利用者の希望を聞きながら出かけておられる。調査訪問時には、午後から1名の利用者が、職員と散歩に出かけて行く様子が見られた。今後も利用者が行ってみたい場所等を探り、支援していかれてほしい。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) ゆずはなの里での金銭預かりは行っていない。家族さんから個人的に貰って所持している利用者については、その使用時に職員も同行して使い方の良い方法などをアドバイスしている。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 自分で電話番号をダイヤル出来ない利用者には職員が番号を回して会話をされている。文字の書ける利用者には書かれたハガキや手紙を出しに行ったりして、家族さんとコミュニケーションを取れるよう支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 廊下、ホールなど利用者さんが集まったり通過される場所には、その季節に合った掲示物を作って掲示したり、写真を貼ったりして、その時々季節感を取り入れている。	
			(外部評価) 民家を改修したグループホームで、広さには制限があるが、玄関や台所等は、利用者の年代に馴染みがある雰囲気、ふすまや壁、天井も民家のままに活かして、利用されている。隣りのお宅の駐車場もお借りして、事業所の駐車スペースを確保されている。2階の居室に上がり降りする階段は急ではあるが、職員が利用者を抱きかかえたり、利用者は手すりを持って後ろ向きで降りる等して、職員が見守っておられる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ホールの椅子も自然と気の合った利用者どうしが隣に座るようになって現状はその状態で固定されていて、一緒に椅子で会話されたりTVを見たりされている。	
			(外部評価)	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 本人が以前から使用していた時計・コップ・箸・布団などを使用したり、本人の気に入っていた人形・アクセサリ・写真などを利用者の各居室の手の届く場所、分かる場所に置いてある。また気に入った物が出来た時には家族さんに連絡して、持って来て頂いたりしている。	
			(外部評価) 居室で編み物をされる方もいて、職員は居室を訪ねて編み物を教えてもらうこともある。食後は、居室で横になって休まれる方が複数おられた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 比較的元気な利用者は二階へ、車椅子の利用者は一階へと振り分けている。又トイレの場所が分からない人には「トイレ」の張り紙をしたり、歩行時には手すりをしっかり持って歩行するよう声掛けをしている。日常生活の中でも声掛けを主に利用者の自立した生活が送れるようしている。	
			(外部評価)	